

新しい風

発行/ はしもと紀子後援会
代表/ 堀田和喜
〒569-1118
高槻市奥天神町2-13-38
TEL・FAX 072-681-0669
E-mail hashimoto-n@tcn.zaq.ne.jp



はしもと紀子後援会ニュース 2003/春 No.3



鶴殿のヨシ原研究所 小山弘道所長と

鶴殿からの春便り

気候の変化が激しく、豪雨や雪の舞う日があるかと思えば、満開の梅の香りが漂う暖かい日があったりと、春への躍動が感じられるこの頃です。皆さまお元気ですか？

3月16日、ことしも鶴殿のヨシ原焼きが行われる予定です。高槻に住み始めた頃、「ヨシ原焼きがはじまるので洗濯物に気をつけましょう」というアナウンスを聞いても、遠いどこかの話にししか感じていなかったヨシ原焼きですが、2度目に赴任した学校で、道鶴町にお住まいの校長先生がヨシの葉で巻いたチマキを食べさせてくださり、土曜日の午後、郷土料理としての、その作り方を教えていただいたことが貴重な思い出です。

ヨシ原焼きは古いヨシを焼いて新しいヨシを育てるだけでなく、害虫退治にも欠かせません。

昨年、偶然に友人から紹介された「鶴殿のヨシ原フェスタ」で鶴殿ヨシ原研究所小山弘道所長の鶴殿再生への熱心な説明を聞かせていただき、鶴殿への新たな関心をかき立てられました。

土佐日記にも登場する淀川沿いの「鶴殿のヨシ原」の再生を目指し、国土交通省は1996年から、川岸の地面を掘り下げた工事を始めました。ヨシの生育しやすい湿地を回復

させるのが目的です。

背の高いヨシは水辺の植物の中で一番、流れの汚れの元となる窒素やリンを吸収し、水をきれいにしてくれます。しかしそのヨシは国の河川改修で冠水しなくなり、面積を減らし続けて、ヨシの天敵のツル植物「カナムグラ」に侵蝕されています。ヨシを植物間競争に勝たせて、あと20年で今の倍の面積まで増やしたいというのが小山所長の夢です。

流れに採まれた鶴殿産のヨシは、穏やかな琵琶湖産とは比べものにならないほど実が引き締まり、糸がピンと張ったような、一本筋が通った音がでる、と評価するのは雅楽の東儀兼彦さん。鶴殿のヨシは古来、雅楽の楽器、箏（ひちりき）の舌（リード）に最適とされてきました。

2月から「葦プロジェクト」により鶴殿のヨシで船作りが行われています。第3回世界水フォーラムの会場（大阪国際会議場）へと淀川上流の瀬田川から道頓堀川までを下っていく予定です。

3月上旬、鶴殿を案内していただいた日は、足もとに「野うるし」のかわいい芽が顔を出していました。私は、ヨシを原料にした紙で作った名刺、私用箋を使っています。

地球環境を守り、次世代に渡す、そのために私たちにできる第一歩を一緒に探してみませんか。

はしもと紀子

安心して子育てができる街に

NPO高槻子育て支援ネットワーク「ティビー」

(高槻市川添2-16-12 信洋ビル302)

代表理事 石井智子さんと語る

今子育てに悩んでいる親たちがつながら、互いに子どもの成長を見守りながら元気になっているネットワーキングがあると聞き、早速お話を伺いました。

子育て支援も

これからが大事

橋本 石井さんは高槻で10年程、子



育て支援に携わってこられましたね。

石井 はい。自分も子育てをしながら、仲間と愚痴をこぼすこともありますが、喜びを分かち合うこともあり、楽しく過ごしています。

橋本 私も子育て経験者ですが、若いお母さん方の悩みはどんなところにありますか。

石井 たとえば妊婦さんに、何か不安なことがありますかとお聞きしても、みなさん「いえ、とても楽しみに待っているんです。」とおっしゃいます。ああ、ほんとに楽しみなんだなど。

ところが、出産されて間もないお母さん方の集まりにいくと、「もう、とにかくしんどいです」と言われる。あんなに待ち望んでいた子どもなのに、1週間もたたないうちにしんどくなる。この差ってなんだろう、あまりにも差が

大きくて私自身も驚いていますし、子育て支援もこれからが大事だなと思っています。

橋本 自分の子どもが生まれるまで、赤ちゃんにさわったことがない、子守の経験のない人達がほとんどですよ。

石井 赤ちゃんの起きる時間が10時ごろで寝る時刻が夜の9時、10時。おそい子になると夜中の2時。でも、いつも同じ時間に寝て起きるから生活リズムがついていると思っっているお母さんが意外に多いんです。子どもの生活リズムを本当に知らない。今の保護者は、ほんとに自分の子育てに不安をもっており、戸惑っておられます。メールで相談したり、携帯で情報をやりとりしたりしても、答えが直接返ってこないし、人とのやりとりの中で教えてもらえないから、不安が解消されないのです。

共同子育て、

こだわりは校区限定で

橋本 そこで、石井さんは親どうしつながる活動をされているのですが、どういった内容でしょう。

石井 子育てサークルというのが私

の活動の始まりでもあり、私の住んでいる地域の子育てサークルにはずっと関わりをもっています。目安として6ヶ月から幼稚園に行くまでの子どもさんと親が基本的に週1回、決まった時間に決まった場所で決まった親子が集まって自分たちで共同子育てをするというのが、子育てサークルです。こだわったことは校区限定であることです。赤ちゃんだったり2才3才の子が小学校にあがるときには、同じ学校に行くということにすぐこだわりをもちました。公園や買い物で顔を合わせられる距離感なんです。すでに250人ぐらいのOBがいますから、校区に友だちがあふれるようになる状態になってきました。

橋本 同じ校区に小さいときからの友だちがたくさんいるなんていいですね。お母さん達にはどんなメリットがうまれましたか。

石井 初めての子育てに不安いっぱい時期に他の子どものお様子を見ると、子育ての見通しがつくようになります。それが一番のメリットではないかなあ。その中でお友達がどんどんできて、子育てのしんどさや悩み、

「学力低下」論議にモノ申す

市内在住 大学教員

いまなお「学力問題」がかまびすしい。が、まず何を学力としてとらえるかが依然あいまいなまま論議と調査が進行していることは大きな問題である。

また、学力形成の基底には、子どもの知的好奇心と自己肯定感（自分に対する尊厳の念）を高める社会的文化的環境が大変重要であるというところが、あまりにも軽視された議論となっていることも誠になげかわしい。

「学力低下」の張本人は「ゆとり教育」だから「学校5日制」を見直せという短絡的な意見も飛び出しているが、またしても学校教育だけに「学力低下」の総責任と総救済を委ねてしまおうというのだろうか。

学校教育の質的向上を図ることはいうまでもないことだが、今日、家庭や社会などの文化的環境が決して豊かでないことよって生じた「子どもの学びからの逃走」という側面を、大人社会はもっと深刻に考えるべきである。（階層格差や地域格差の問題も、こと新たな問題ではない）

たとえば一、二例をあげるなら、今日、親子でゆったりと教養を深め

合ったり、社会的関心を豊かに高め

合えるようなテレビ番組がゴールデンアワーにどれだけ流されているというのか。常連タレントによる「軽薄軟弱路線」の番組ばかりが毎夜毎夜湯水のごとく流されている現実

もつとバッシングされてよい。子どもの読書離れをいう前に、大人が今月何冊の本を読んだか、ということもきっちり内省すべきことがらではないのか。

現代日本の大人の「教養度」は先進14か国中、なんとブービー賞だったというOECDの調査報告を待つまでもなく、まずは「学びから逃走してしまった大人たち」の「学力・教養低下」問題をもっと深刻に考えるべきときではないだろうか。

新年度を迎え、それぞれに小さな決意をしたいものである。子どもたちにとって最大最善の教育環境は、何といってもわたしたち大人なのだから。



教育は未来への先行投資

少子化はますます進み、将来を考えると深刻な状況です。また、「学級崩壊」や子どもたちの「学びからの逃避」などの教育問題も課題となっています。日本は今、工業化社会から知識型、循環型社会に移行していく転換期にきています。その推進の核になるのが教育です。

少人数学級で、自立心と個性を育て、学力と生きる力をつける教育の実現など、すべての児童・生徒がそれぞれの可能性を開花できるように学びの環境づくりが必要です。また、都市化や核家族化の中で孤立する若い親への地域支援体制づくりも大切です。子どもは社会の宝、未来への希望です。新しい時代を担う人材の育成は社会の先行投資といえます。2002年から始まった「学校完

全週5日制」が定着し充実するため、今こそ地域の教育力の活用が求められます。

地方分権の時代、中核市高槻として、豊かな教育行政を求め、市民参加で地域の子育て支援や新しい学校づくりをすすめる、子どもたちの夢が実現できるまち高槻をめざします。



3.1 アメリカのイラク攻撃に反対する大阪府民集会

はしもと紀子プロフィール

- ・1950 金沢市生まれ
- ・1971 北陸学院短期大学 食物栄養学科卒業
- ・1971～金沢市教育委員会に勤務
- ・1975～高槻市立芝生小学校、郡家小学校、富田小学校、清水小学校に勤務
- ・現在 *管理栄養士
 - *高槻市男女共同参画審議会委員
 - *NPOグリーンコンシューマ 大阪ネットワーク・たかつき代表
 - *子どもの食教育研究会代表
 - *民主党高槻島本市民運動部長

好きなこと
庭仕事・音楽鑑賞・みんなで飲んで話すこと

主張

食の体験を通じて生きる力を学びとする

地場産の学校給食へ——文部科学委員会での質問

私は、2月26日の衆議院文部科学委員会、学校給食を地産地消の食材に転換するよう提案しました。

いま、子どもたちのあいだに朝食の欠食、一人きりの夕食、過度のダイエットといった食事風景がひろがっています。食事内容もコンビニの弁当、ファーストフードの加工品が中心で、栄養が偏り、肥満、高コレステロール、高脂血

症など生活習慣病の低年齢化が進んでいます。

子どもの食生活に、まず責任を負うのは家庭ですが、共働きや長時間労働などもあって、家庭だけでは限界にきているように思います。子どもの食事の乱れもあって、学校給食があらためて注目されるようになりました。現在、学校給食を摂っている小中学生は全国で約1、100万人です。まさに学校給食は、食の教育の場といえます。

地場産給食に心がけ、季節の旬の味わいを子どもに伝えようと頑張っている学校栄養士もみかけます。しかし、多くの子どもは、市場から購入した産地不明の食材をつかった給食を与えられているため、自分が食べている野菜や魚、米がどこでとれ、どんなふう

だったのか知りません。学校給食にその地域でとれた農産物、海産物を食材にするようになれば、子どもたちは食べ物のいのちを学び、それだけではなく、地域の農業や漁業の活性化ともなりましょう。

「地域でとれた安全な食材を、学校給食に活用したらどうか」という私の質問に対し、遠山文部科学大臣は「同感であり、地域の特産物の活用、郷土料理の導入を進める」と答えました。

満足できる答弁ではありませんが、私は今後も現地調査を進めるなど、学校給食の改善に取りくもうと思っています。この日の質問では「平成17年から栄養教諭を配置する」という答弁も引き出しています。

衆議院議員

ひだ美代子



堀田和喜後援会代表作成の表札が出来ました。

はしもと紀子は新しい政治の実現と住み良い地域づくりのためにがんばります。いつでもどうぞ

市民相談

生活／食と健康／福祉
教育と学校／その他

新しい風

はしもと紀子後援会ニュース

発行/はしもと紀子 後援会

代表/堀田和喜

〒569-1118

高槻市奥天神町2-13-38

TEL・FAX 072-681-9889

E-mail hashimoto-n@tcn.zaq.ne.jp

http://www.hashimotonoriko.com